

● 3. GENELEC の活動から見た日本の標準化教育への提言 (済み)

佐々木 宏 (JEMA)

【質問者】

ISO や IEC は 1 国 1 票だが、企業が参加できるというのはどういうことか。

【発表者】

WG レベルであれば、エキスパートとしていくらでも参加できる。

そこで、どんどん提案を行えばよい。

他国の提案に対して、No も言える。

ただし、最終的には”日本”として意見を取りまとめることになる。

【質問者】

SMB や CB といった上層部に日本人がいることは、TC/SC での活動に役に立ったか。

【発表者】

あまり役に立たない。

彼らは全体としての調整役であり、個別の TC/SC に深入りすることはない。

それよりも、議長や幹事のほうが現場としては影響力が大きい。

【質問者】

国際標準化力の要件をすべてもつような人は、そもそも標準化活動以外に取られてしまうのではないだろうか。

【発表者】

組織として取り組むのが妥当だと思う。

また、WG に参加し、たくさん提案して主査をとること。主査は比較的とりやすい。

主査をとったら、その人をどんどん支援し育てていけばよい。

【質問者】

議長になって会社の中で評価はあがったか。

【発表者】

まったく関係なかった。

SC61B の議長依頼を 2 つ返事で引き受けたときは、電子レンジ事業部所属だった。後に本部に移動し海外出張決済を提出したところ、「たかが一つの商品だけの議長など辞めてしまえ」と却下された。そこで、事業部門からの要請として会社に掛け合ってもらい、会社の了解が得られた。

いが、今後の検討課題としたい。